



平成 29 年 3 月 7 日
国土交通省九州地方整備局
川内川河川事務所

九州で初！ 水系一貫の「川内川水系かわまちづくり」が、新規登録されました。

川内川沿川 3 市 2 町の首長等を訪問し、登録証の伝達を行います。

川内川において、これまで個別の市町で実施していた河川環境整備事業を、水系一貫の考えの下に流域一体での「かわまちづくり計画」を策定・推進し、地域の活性化に資することを目的として設立された「川内川水系かわまちづくり推進協議会（構成機関：沿川 5 市町、鹿児島県、宮崎県及び国）」において策定した、九州で初めてとなる水系一貫のかわまちづくり計画である「川内川水系かわまちづくり」（別紙 1 参照）が、かわまちづくり支援制度（別紙 2 参照）において新規登録されました。

登録を受け、川内川沿川 3 市 2 町の首長等を訪問し、登録証の伝達を行います。

○「かわまちづくり支援制度 登録証」伝達日程（各市町 20 分程度を予定）

◆さつま町

- ・日時：平成 29 年 3 月 9 日（木）15:40～
- ・場所：さつま町 宮之城文化センター さつま町船木 302 番地
「宮之城屋地・虎居地区かわまちづくり推進協議会」の後に伝達を行います。

◆薩摩川内市

- ・日時：平成 29 年 3 月 9 日（木）16:45～
- ・場所：薩摩川内市役所 市長応接室

◆えびの市

- ・日時：平成 29 年 3 月 13 日（月）10:00～
- ・場所：えびの市役所 市長応接室

◆湧水町

- ・日時：平成 29 年 3 月 13 日（月）11:00～
- ・場所：湧水町役場 町長応接室

◆伊佐市

- ・日時：平成 29 年 3 月 13 日（月）13:00～
- ・場所：伊佐市役所 市長室

○取材については、報道機関のみへの公開となります。テレビカメラ等による撮影は、伝達の妨げにならないように、ご配慮願います。

○発表記者クラブ：川内記者クラブ、えびの市政記者クラブ



【ロゴのコンセプト】

川が流れる彩り豊かなまちや生活をモチーフに表現するとともに、実をつける木をイメージしました。
未来へつながる「かわまちづくり」のシンボルマークです。

〈問い合わせ先〉

国土交通省九州地方整備局 川内川河川事務所

TEL0996-22-3271 FAX0996-25-0862

副所長（技術） 中村 星剛（内線204）

調査課長 安部 剛（内線351）

せんだいがわ
「川内川水系かわまちづくり」

(国土交通省、薩摩川内市、さつま町、伊佐市、湧水町、えびの市)

市町村名： 鹿児島県薩摩川内市、さつま町、伊佐市、湧水町、宮崎県えびの市

対象河川： 川内川水系川内川

1. 概要

川内川流域は、上流域から、えびの市のクルソン峡、湧水町の阿波溪谷^{あばけいこく}、伊佐市の東洋のナイアガラと呼ばれる曾木の滝、さつま町の轟の瀬、薩摩川内市の長崎堤防がある広大な河口など、背後のまちの自然・歴史・文化を反映した地域毎に特色あるすばらしい河川景観を有していると共に、鮎やホタルが生息するなど良好な河川環境のほか、温泉地などの魅力的な地域資源が数多く存在しています。そこで、川内川流域では、これらの様々な地域資源・場の特徴を活かすため、豊かな恵みをもたらす川内川を核(軸)とし、“舟”を特色としたかわまちづくり、河川の利用を基本方針とし、地区毎に3つのコンセプトを掲げ、単独地域では成し得ない地域活性化を目指します。

特に、観光面での連携を強化して、かわまちづくりを中心とした、川内川ブランドを確立し、交流人口及び物産販路を拡大し、地域経済の活性化を図ります。

2. 整備内容

(国)高水敷整正、階段護岸、管理用通路 等

(市)公園整備、案内看板、街灯 等



基本方針
 豊かな恵みをもたらす川内川を核(軸)とし、“舟”を特色としたかわまちづくり・河川の利用を推進し、川内川流域一体かつ連携の下、地域の活性化・振興を図る。

- ① ウォータースポーツ、アクティビティの普及・推進
- ② 地域(観光)資源の活用
- ③ 自然環境の保全・整備



かわまちづくり支援制度 ～良好なまち空間と水辺空間の形成～

【別紙2】

河口から水源地まで様々な姿を見せる河川とそれに繋がるまちを活性化するため、地域の景観、歴史、文化及び観光基盤などの「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、市町村、民間事業者及び地元住民と河川管理者の連携の下、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指します。

○事業概要

ソフト対策

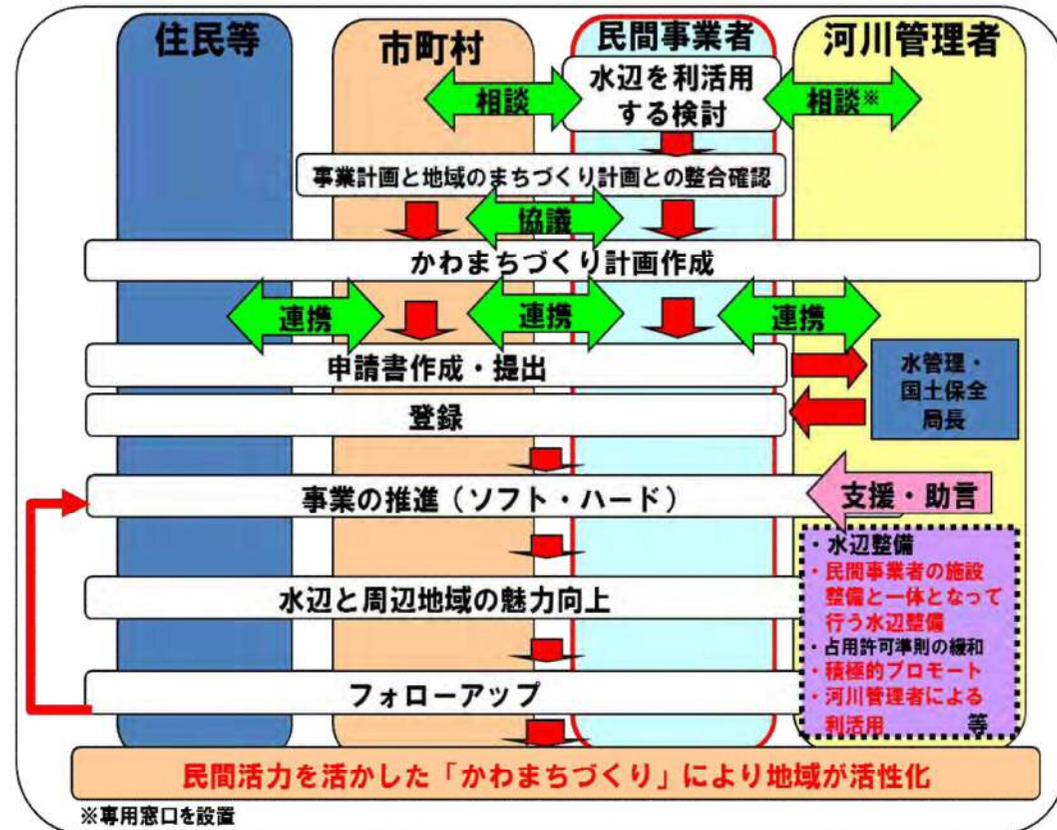
- ・民間事業者による河川敷のイベント広場やオープンカフェ等への利用制度等を活用
- ・河川管理者として「地域づくりのためのフォローアップ」を積極的に支援

ハード支援

- ・まちづくりと一体となった水辺整備を積極的に支援



管理用通路をフットパスとして活用
(最上川)



- ①地域の創意としての「知恵」を活かした計画を対象
- ②利活用方策が地域において明確となっているものを対象
- ③施設の維持管理に地域の協力が得られるものを対象